



HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA An Evening of Peace Concert



beyond
2020

HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA
～音楽が紡ぐ“縁”～

広島交響楽団

2019「平和の夕べ」コンサート

栄光の未来へ

Conductor :
Christian Arming
©Shumpei Ohnogi

Horn :
Javier Bonet*
©javierbonet.com

Violoncello :
Steven Isserlis
©Satoshi Aoyagi

指揮：クリスティアン・アルミンク
チェロ：スティーヴン・イッサーリス
ホルン：ハビエル・ボネ*
コンサートマスター：佐久間聡一、蔵川瑠美
Concertmaster: Soichi Sakuma, Rumi Kurakawa
特別客演奏者
コントラバス首席：エディクソン・ルイス (ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)
Guest Principal Contrabass: Edieson Ruiz / Berliner Philharmoniker

2019.8.5月 18:45開演
(17:45開場)

Mon August 5, 2019 Start 18:45 (Open 17:45)


広島文化学園HBGホール 広島市中区加古町3-3

Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

◆チケット発売日/2019年6月5日(水)
◆チケット料金/S:5,000円 A:4,000円(学生:2,000円)
※学生席は小学生以上、25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみで取り扱い)
※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。

◆プレイガイド
アステールプラザ情報交流ラウンジ、エディオン広島本店、福屋八丁堀本店、福屋広島駅前店、
アルパーク天満屋、広島アーツ楽器、ヤマハミュージック広島店管弦打楽器売場、
チケットぴあ(Pコード142-511)、ローソンチケット(Lコード62663)、中国新聞社読者広報部、
中国新聞販売所(取り寄せ)、広響事務局

主催/広島市、公益財団法人広島市文化財団、公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社

助成/  文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

後援/プリティッシュ・カウンスル

Program

細川俊夫
リートV
チェロと弦楽オーケストラ、
打楽器、ハープのための
(広響委嘱・世界初演)

Toshio Hosokawa :
Lied V, for Violoncello and String Orchestra
with Percussion and Harp
(World Premiere)

ショスタコーヴィチ
チェロ協奏曲第1番変ホ長調
Op.107*

Shostakovich :
Violoncello Concerto No.1 in E-flat major
Op.107*

マーラー
交響曲第1番ニ長調「巨人」*

Mahler :
Symphony No.1 in D major "Titan"*

お問い合わせ/広響事務局 TEL.082-532-3080

<http://hirokyo.or.jp>

2019「平和の夕べ」コンサート

栄光の未来へ

クリスティアン・アルミンクが広響首席客演指揮者就任後初の「平和の夕べ」を指揮。

世界的チェロ奏者のスティーヴン・イッサーリスを迎え、細川俊夫の新作世界初演、そしてショスタコーヴィチのチェロ協奏曲では独奏ホルンにハビエル・ボネを配して臨む。

後半は、若きマーラーの青春と旅立ち、幸福の幻影を脱ぎ捨て、現実という名の苦難を越え、栄光の未来へと突き進む。

8月5日の広島で聴くからこそその感動を。



指揮：クリスティアン・アルミンク Conductor : Christian Arming

ウィーン生まれ。ウィーン国立音楽大学でハーガーに学んだあと、小澤征爾のもとで研鑽を積み、ポストン交響楽団や新日本フィルハーモニー交響楽団にデビュー。ヤナーチェク・フィルの首席指揮者、ルツェルン歌劇場およびルツェルン交響楽団の音楽監督などを経て、2003年から13年まで新日本フィルの音楽監督として活躍した。2011年からベルギー国立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督、2017年4月から広島交響楽団の首席客演指揮者に在任中。

これまでにチェコ・フィル、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、ウィーン響、ベルギー国立管、トゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマン管、ローマ・サンタ・チェチリア国立管などヨーロッパのトップ・オーケストラと共演。ほかにも、ポストン響との再共演のほか、シンシナティ響、ヒューストン響、アトランタ響、N響、上海響など多くのオーケストラに招かれている。オペラではフランクフルト歌劇場やストラスブルグ歌劇場などで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》などを指揮。新日本フィル時代には《レオノーレ》《フィレンツェの悲劇》など、オペラ・プログラムにも積極的に取り組んだ。

レコーディングも数多く、ヤナーチェク・フィルとのヤナーチェク、シューベルト作品、新日本フィルとのブラームス／交響曲第1番、マーラー／交響曲第3番および第5番のほか、直近ではリエージュ管とフランク／交響曲二短調をリリースしている。

チェロ：スティーヴン・イッサーリス Violoncello : Steven Isserlis

イギリス生まれ。深い音楽性と卓越した技術で、世界中で称賛される現代最高のチェリストの一人。世界屈指の指揮者らのもと、ベルリン・フィルやウィーン・フィルをはじめとする超一流のオーケストラと共演を続けている。室内楽にも力を入れ、様々な名手らとザルツブルク音楽祭やロンドンのウイグモアホール、ニューヨークの「92nd Stet Y」といった名だたるホールで演奏会を開いたり、コンサートシリーズを企画したりしている。

歴史的奏法にも深い関心をよせ、ピリオド楽器を用いるオーケストラに頻繁に客演。チェンバロやフォルテピアノ奏者との共演によるリサイタルもたびたび行っている。同時に現代音楽の支持者でもあり、タヴナー「奇跡のヴェール」、アデス「見出された場所」、クルターク「スティーヴンのために」などの初演も任されてきた。

録音も数多く、最近ではJ.S.バッハの無伴奏チェロ組曲全曲や、ベートーヴェンのチェロ・ソナタ全曲、エルガー&ウォルトンのチェロ協奏曲(P.ヤルヴィ指揮フィルハーモニア管)など、多くの賞を受賞。ピアニストのコンニー・シーを迎えた『戦時のチェロ〜ドビュッシー、ブリッジ、フォーレ、ヴェーベルン、バリー、他』では、第一次世界大戦中にイギリス陸軍兵士が戦場で用いたトレンチ・チェロで、一部の収録曲を奏でている。

若き聴衆のための活動にも情熱を傾け、イッサーリスが子供たちに向けて執筆した2冊の本は、多くの国の言語に翻訳されている。



ホルン：ハビエル・ボネ Horn : Javier Bonet

エッセン/ドイツのフォルクヴァンク音楽大学にて、ヘルマン・パウマンに師事。ソリスト、室内楽奏者として世界中でホルンのレパートリーを開拓し続けており、ナチュラルホルン奏者としては、自らが主催したアンサンブル「Corniloquio」と共に、古楽器の権威としても知られている。これまでに、スペインをはじめヨーロッパ各国、台湾、中国、南米、日本、アメリカ等の一流オーケストラと共演している。また、E.コスマ、J.コロマー、M.コンスタントのホルンとオーケストラのための協奏曲を世界初演、リゲティのハンブルク協奏曲をスペイン初演し、絶賛される。後に、スペイン国立管弦楽団と行ったサルヴァドール・ブロントンの協奏曲「Ab Origine 起源より」の世界初演は最も記憶に残るものとなった。1987年よりスペイン国立管弦楽団のメンバー。バルセロナのカタロニア高等音楽院でナチュラルホルンとホルンの主任教授を務めている。

広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra

国際平和文化都市「広島」を本拠地とする、中・四国を代表するプロオーケストラ。1998年、秋山和慶が首席指揮者・ミュージックアドバイザー、2004年から2016年まで音楽監督・常任指揮者を務めた(2017年終身名誉指揮者に就任)。2017年からは、下野竜也が音楽総監督に、クリスティアン・アルミンクが首席客演指揮者に迎え新体制をスタートさせた。また2016年には、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデがミュージック・パートナーに就任した。また、マルタ・アルゲリッチに広響「平和音楽大使」の称号を贈り、相互に世界平和のための音楽活動が続けることを約束した。これまでに、「文化対話賞(ユネスコ)」「広島市民賞」などを受賞。

公式ホームページ <http://hirokyo.or.jp>

